

目録所在情報サービス等の利用資格の拡大

平成5年8月1日から、目録所在情報サービスの利用資格を拡大し、大学等以外の表1に掲げる図書館にもサービスを提供することといたしました。

これを機会に、多くの図書館が利用され、我が国の図書館ネットワークが拡大・充実することを期待しております。

また、情報検索サービス及び電子メール等のサービスについても、表2に掲げる学術研究等を行う機関等の研究者、学会の正会員の方に同時にサービスを提供することといたしました。

○ 新たに利用を認める範囲

表1 目録所在情報サービス

1. 国公立試験研究機関の図書館、図書室等
2. 特殊法人の図書館、図書室等
3. 学術研究法人の図書館、図書室等
4. 大学に相当する教育施設の図書館、図書室等
5. 学会の図書館、図書室等
6. 都道府県、政令指定都市立の図書館
7. 学術情報センターの事業に協力する機関の図書館、図書室等
8. その他前各号に準ずると認められる機関の図書館、図書室等

表2 情報検索サービス及び電子メール等のサービス

1. 文部省及び文化庁の職員
2. 国公立試験研究機関の研究職員及び図書館職員
3. 特殊法人の研究所の研究職員及び図書館職員
4. 学術研究法人の研究職員及び図書館職員
5. 大学に相当する教育施設の教員及び図書館職員
6. 研究助成法人の研究助成担当職員
7. 学会の正会員
8. 大学等との研究協力関係を有する民間企業の研究者
9. 海外の高等教育・研究機関の研究職員等

(注)電子メール等のサービスについては、「研究職員及び図書館職員」及び「教員及び図書館職員」を、「職員」と読み替えるものとする。

ILLシステムの機能向上について

<バックファイルの運用について>

先号のニュースレターでご案内いたしましたバックファイルを平成5年10月29日(金)より運用しております。

なお、バックファイル中の表示の際には、画面の見出し部に「BAK」を明示します。

<今後の機能向上予定について>

12月10日(金)から次の項目の運用開始を予定しています。

1. [本館・分館のサービスフラグの連動](#)
2. [参加組織メンテナンスの修正権限の変更](#)
3. [PARDON時の次候補館のサービスフラグのチェック](#)
4. [複写・貸借間のCOPYおよびCOPY時の複写項目の変更](#)
5. [LOC,VOL,CLN,RGTNのアクセス化](#)
6. [照会時における料金事項およびPRMTの保存](#)
7. [「照会」状態でのコマンドチェック](#)

以下、各項目について説明します。

1. 本館・分館のサービスフラグの連動

分館等の資料の受付を本館等が行なっている場合、これまでは、本館のSSTATをNにしても分館のSSTATがAのままだと、LOOKUP HOLDINGS時には分館の所蔵データは表示され、ORDER時になって始めて、依頼できないことが分かったといった現象が起きていました。

そこで、今回の機能向上では本館等の受付受理館のサービスフラグ(COPYS,LOANS,SSTAT)の状態が分館等にも連動するようにして、LOOKUPHOLDINGS時の表示にも反映させるようにします。なお、FAXSIは対象外とします。

本館等のCOPYS,LOANS,SSTATが変更された場合、その本館等を受付受理館に指定している(AMLIDC,AMLIDBに指定している)分館等のCOPYS,LOANSが下表のように自動的に変更します。

本館等のサービスフラグ		本館等が複写受理館 になっている分館の COPYS	本館等が貸借受理館 になっている分館の LOANS
COPYS	A	C	変更しない
	C	変更しない	変更しない
	N	N	変更しない
LOANS	A	変更しない	C
	C	変更しない	変更しない
	N	変更しない	N
FAXS	A	変更しない	変更しない
	C	変更しない	変更しない
	N	変更しない	変更しない
SSTAT	A	C	C
	N	N	N

が連動する内容

この機能では分館のSSTATは連動していませんので、本館の状況にかかわらず分館の受付サービスを休止する場合は、分館のSSTATを「N」にすればよいことになります。

本館のCOPYS,LOANSの値とSSTATの値が異なる場合は「N」の値が優先されます。例えば本館が「COPYS=A かつ SSTAT=N」の場合は、その本館を複写受理館にしている分館は「COPYS=N」になります。

また、この連動は参加組織レコードの時差更新時に行いますが、同日中に本館のサービスフラグと分館のサービスフラグが更新されている場合は、本館のサービスフラグが優先されて分館のCOPYS,LOANSが連動されることになります。

この機能につきましては、次項も含めて各参加組織間で十分連絡をとりながら運用して下さい。

2. 参加組織メンテナンスの修正権限の変更

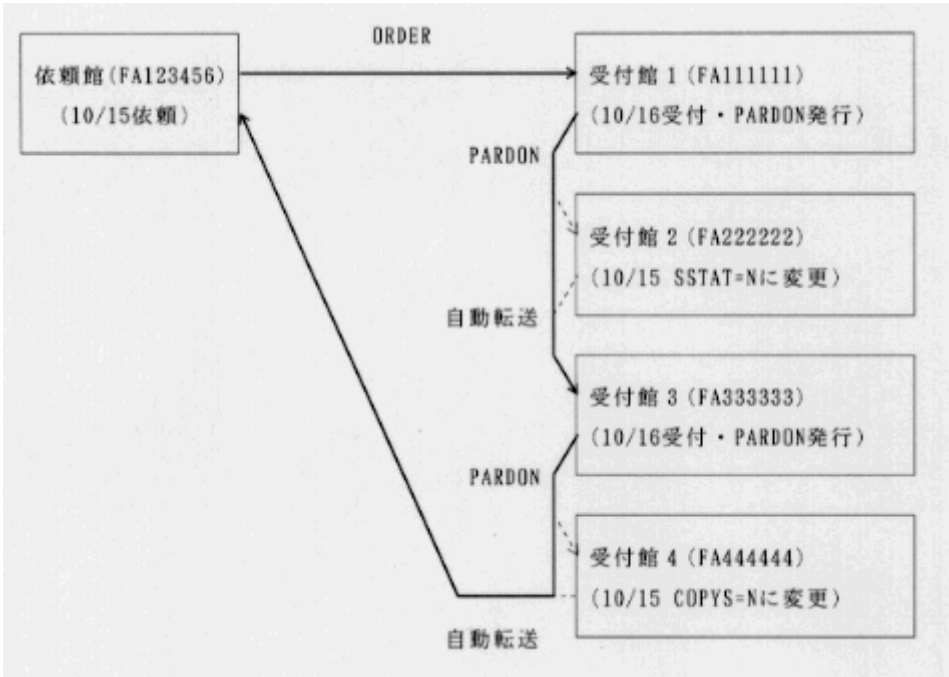
ユーティリティ業務の参加組織メンテナンスの操作を、ILLシステムの全てのユーザーIDで可能とします。また、これまで使用していた機関内特権IDは、新たに機関内の全ての参加組織のメンテナンスを可能とするようにします。

3. PARDON時の次候補館のサービスフラグのチェック

PARDONコマンドで謝絶したとき、これまでは次候補館のSSTATあるいはCOPYS、LOANSが「N」の場合、転送ができませんでしたが、今回、次候補館のSSTATあるいはCOPYS(複写依頼の場合)、LOANS(貸借依頼の場合)がNの場合、当該受付館はジャンプしてさらに次の候補館に転送するようにします。

この場合、履歴にはジャンプした受付館のコードと「サービス休止中につきシステムが転送しました」というコメントが残ります。また、最後の候補館が受付休止館である場合には、依頼は全ての候補館で謝絶されたことになり、状態は「新着照会」になります。

自動転送の例(4館を指定し、依頼後に2・4番目が受付休止になった場合)



前図の場合の履歴例

```
[19931015.16:58:25 ORDER FA123456]
[19931016.10:10:13 DISPLAY FA111111]
[19931016.11:25:48 PARDON FA111111 製本中のため複写できません。]
[19931016.11:25:48 PARDON FA222222 サービス休止中のためシステムが転送しました。]
[19931016.14:40:30 DISPLAY FA333333]
[19931016.16:42:10 PARDON FA333333]
[19931016.16:42:10 PARDON FA444444 サービス休止中のためシステムが転送しました。指定された全ての受付館で謝絶されました。]
[19931016.16:50:04 DISPLAY FA123456]
```

4. 複写・貸借間のCOPYおよびCOPY時の複写項目の変更

いちど複写で依頼した資料について、改めて貸借の依頼をしたい場合があります。あるいは逆に、貸借で依頼した資料を別途複写で依頼することもあります。そのような場合、これまでは「貸借」あるいは「複写」のレコードを新たに作成していましたが、今回、複写と貸借の業務間でレコード・コピーができるようにCOPYコマンドにオペランドを追加します。

コマンド	オペランド (下線は省略形)	内 容
COPY	<u>COPY</u>	「貸借業務」のレコードをコピーして、 「複写業務」のレコードを作成する。
	<u>LOAN</u>	「複写業務」のレコードをコピーして、 「貸借業務」のレコードを作成する。

なお、この複写・貸借間のCOPYは詳細表示画面でのみ有効で、簡略表示からは発行できません。また、「COPY」あるいは「LOAN」のオペランドを付してCOPYコ

マンドを発行した場合、画面に「TAP5944I 複写依頼レコードを作成しました。」、あるいは「TAP5943I 貸借依頼レコードを作成しました。」とメッセージが表示されるだけで、画面はまだ元の業務にあります。作成した新しいレコードを操作するには一旦業務選択画面まで戻り、改めて複写依頼業務あるいは貸借依頼業務を選択してください。

複写依頼詳細表示	3/	3
>:COPY LOAN		
<LA0001356926> 照会 OMLNM:学情大 AMLNM: 大塚大		
ACCT:pr TYPE:電子複写 SPVIA:速達 ONO:93-0103T PRMT:		
BIB:<AN00052158>船と海上気象 / 気象庁.		
VLNO:	PAGE:	YEAR:
ARTCL:全文		
HMLID:FA999999 HMLNM:大塚大		
HMLID:FA101010 HMLNM:情大 LOC:中央館		
BVRFY: HVRFY:NAC SIS-CAT		
CLNT: CLNTP:		
ODATE:19931022		
[19931021.12:47:28 ORDER FA123456 全文複写です。よろしくお願ひいたします]		
[19931022.12:50:36 DISPLAY FA999999]		
[19931022.12:51:45 PARDON FA999999照会 全文複写はできません。貸借でお願いします。		
]		
[19931022.12:52:52 DISPLAY FA123456]		
CMMNT:		
OSTAF:海野那珂 参考調査係 TEL=XX-XXXX-XXXX 内線= XXX FAX=XX-XXXX-XXXX		
OLDF:		
OLDAF:		
OADDR:〒XXX 東京都文京区大塚-----		

↓

貸借依頼レコードを作成したというメッセージが表示される。

複写依頼検索・簡略表示	3/	3
TAP5943I 貸借依頼レコードを作成しました。		
>:		
STAT:照会	ID:	AMLID:
3.<LA0001356926> 照会 大塚大 19931022 <93-0103T> 速達		
船と海上気象 / 気象庁.		

業務選択まで戻り、貸借依頼業務を選択すると、COPYされたレコードが準備中の状態で作成されている。

貸借依頼詳細表示	46/	46
>:		
<LA0001356937> 準備中OMLNM: 学情大		
ACCT:pr TYPE:	SPVIA:速達 ONO:	PRMT:
BIB:<AN00052158>船と海上気象 / 気象庁.		
VLNO:	PAGE:	YEAR:
ARTCL:		
HMLID:FA999999 HMLNM:大塚大 LOC:	VOL:	CLN: RGTN:
HMLID:FA101010 HMLNM:情大 LOC:中央館 VOL:	CLN:	RGTN:
BVRFY: HVRFY:NAC SIS-CAT		
CLNT: CLNTP:		
ODATE:		
CMMNT:		
OSTAF:海野那珂 参考調査係 TEL=XX-XXXX-XXXX 内線= XXX FAX=XX-XXXX-XXXX		
OLDF:		
OLDAF:		
OADDR:〒XXX 東京都文京区大塚-----		

なお、COPYコマンドについては、従来同一雑誌の同一巻号について異なる論文を依頼するのを想定して複写項目としてARTCL,PAGE等は複写されていませんでした

が、今回、ARTCL、PAGE等のデータをそのまま残して複写するようにします。ただし、オペランド「LOAN」を指定して、複写から貸借にコピーする場合はTYPE、PAGE,ARTCLはコピーされずにクリアーされます。

5. LOC、VOL、CLN、RGTNのアクセス化

現在、一度SAVE又はORDERした依頼レコードの「LOC」「VOL」「CLN」「RGTN」の各フィールドは変更できませんが、これを依頼館の「準備中」状態に変更できるようにします。これに伴い「準備中」状態のレコード詳細表示画面では、上記4フィールドをデータの有無にかかわらず表示します。このため、HMLID～RGTNは画面上で2行にわたることがあります。

6. 照会時における料金事項およびPRMTの保存

これまで、PARDONコマンドによって料金通知を行なった場合、依頼館からANSWERで回答されたレコードの料金に関する項目が消去されていましたが、これを消去しないように変更します。

照会時に消去される項目を日付に関する項目

(ADATE,SDATE,RDATE,DDATE,BDATE, KDATE)だけとしました。

このことにより、料金に関する事項やPRMTなどは照会した後も保持されるので受付館での再入力が必要になります。

7. 「照会」状態でのコマンドチェック

これまで、「照会」状態のレコードに対しては、CANCEL,RETRY,FORWARD,ANSWER、SAVEのコマンドが有効となっていました。が、ANSWERで受付館側へ回答しなければならないものにCANCELやFORWARD等のコマンドを発行してしまうなどのトラブルがありました。

今後は、「照会」状態でSUMフィールドに値のあるレコードはANSWER以外の状態遷移を伴うコマンドはエラーとします。

受付館が必ず回答を受けたい場合には、レコードの料金項目に必要なデータを入力することによって、例えば「0(ゼロ)」とだけ入力することでもCANCEL等を回避できます。

FORWARDコマンドが発行できなかった例

複写依頼詳細表示

TAP5953E SUMに値が入力されているため、ANSWERコマンドしか発行できません

。

>: FORWARD

<LA0000000000> 照会 OMLNM: 学情大 AMLNM: 大塚大

ACCT: pb TYPE: 電子複写 SPVIA: ONO: J0011 AND: 0145 PRMT:

BIB: <AA00704122>Journal of organometallic chemistry.(ISSN=0022328X)

CLNT: 有馬 卓月 CLNTP:化学系

ITEM:B4 QNT:3 UPRICE:35 CHARGE:105

POSTG:72 SUM:177

ODATE:19931025

[19931025.10:25:10 ORDER FA123456]

[19931025.11:35:05 MDOWNLD FA999999]

[19931025.14:45:32 PARDON FA999999 照会 複写料金は177円です。料金到着次第送付しますので料金発送後ANSWERで回答してください。]

平成5年度 第1回総合目録委員会の審議内容

平成5年度第1回総合目録委員会が9月20日(月)14:00～16:00に開催されました。

1. 目録情報関係事業の現況について

参加機関の状況、データベース登録状況、ILLシステム運用状況、学術雑誌総合目録欧文編編集状況について、順調に推移しているとの報告があった。

2. 目録情報関係システム開発について

今年度実施するシステム開発について説明があった。

件名のヨミフィールドの新設に関し、既存レコードの該当フィールドに対してはセンター側で遡及的にヨミのデータを付与してほしいとの要望があり、対応することになった。

3. XUIP・個別版CD-ROMシステムの開発状況について

昨年度の開発結果の報告の後、今年度の第2期開発計画について説明があった。

また、XUIPのソースコードは現在のところ13機関に対して提供しているとの紹介があった。

4. 教育・研修事業について

今年度の研修実施状況についての報告に対し、受講希望に可能な限り対応してほしいとの要望があった。

5. 目録所在情報サービスの利用者の範囲拡大について

前回の委員会において承認された利用者の範囲拡大について、平成5年8月1日より実施している旨の説明があった。

6. 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会について

今年度から発足した同部会の活動状況について、第1回の会合を9月2日(木)に行い、作業方法・スケジュールの確認、「図書書誌レコード修正指針(案)」の具体的検討を行った旨の報告があった。

7. ILLシステムの外部依頼機能について

BLDSC(British Library Document Supply Centre)へ依頼する場合のシステム上の動作、会計関係の処理等について説明があった。

なお、平成5年度に入り、委員に人事異動があったため、次のように委員の交替・所属の変更がありました。

新 委 員	旧 委 員
木村明彦 (東京都立大学附属図書館事務長)	玉利幸雄 (同左)
近藤禧二男 (九州大学附属図書館事務部長)	武川栄一 (東京工業大学附属図書館事務部長)
宮本 哲 (東京都立中央図書館資料部整理課長)	山手秀雄 (同左)
上田敏次 (学術情報センター事業部長)	雨森弘行 (同左)
新 所 属	旧 所 属
松浦 正 (大阪大学附属図書館事務部長)	(筑波大学図書館部長)

「目録情報の基準運用細則」作成検討部会の審議内容

前号のニュースレターの総合目録小委員会報告でお知らせしましたように、「目録情報の基準運用細則」作成検討部会(主査:永田治樹東京大学附属図書館情報サービス課長)が発足しました。

「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第1回打ち合わせ(全体会議)

日 時：平成5年9月2日(木) 13:30～17:00

1. 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会について

作業計画および作業内容について、原案どおり了承された。1年次は和図書・著者名典拠を、2年次には洋図書を、3年次には雑誌等を中心として、コーディング・マニュアルを作成していく予定となった。今後の部会は、調整作業班によって月1回程度、原案作成等が行われ、作成された原案に対する評価等は、評価検討班によって電子掲示板(BBS)を通して行われることになった。なお、当部会のメンバーは以下の方々に依頼した。

評価検討班

氏 名	所 属
山 口 雄	北海道大学附属図書館目録情報掛長
前 田 裕	東北大学附属図書館洋書目録掛長
秋 山 紀	東京大学附属図書館目録主任
平 尾 蔵	慶応義塾大学三田会館云々或淵銭枉霊鷲伊淵担当課長
蔵 大 代	国立婦人教育会館システム管理係長
久 島 順	上越教育大学附属図書館目録情報係
桃 井 栄	名古屋大学附属図書館第一情報資料掛長
中 司 里	信州大学附属図書館整理係
近 藤 茂	京都大学附属図書館洋書目録情報掛長
稲 葉 生	立命館大学附属図書館目録係
益 森 子	神戸大学附属図書館データ管理掛長
諸 熊 勇	九州大学附属図書館第二目録情報掛
	福岡大学図書館図書一課和漢書係

調整作業班

氏 名	所 属
永 田 治	東京大学附属図書館情報サービス課長
浮 塚 利	明治大学附属図書館文献情報課
山 本 和	東京大学教養学部数理学部図書掛長
増 井 雄	千葉大学附属図書館園芸学部分館図書係
柴 田 子	国文学研究資料館情報サービス係
	慶応義塾大学三田会館云々或淵銭枉霊鷲伊淵係主任

2. 「図書書誌レコード修正」案について

原案に基づいた審議の結果、修正は原則として作成館が行うこと等が確認された。

また、参加機関の作業レベルを、フィールドごとに「発見館が慎重に修正するもの」「作成館と協議が必要なもの」「所蔵館への連絡が必要なもの」に区分した。

修正事項一覧については継続審議となり、BBSに出された意見を次回の部会でまとめることになった。

3. 「和図書書誌レコード新規作成基準(親書誌)」について

原案が提示され、具体的な意見はBBSに各メンバーが出すことになった。

4. 遡及入力について

次回までに検討事項をまとめることになった。

「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第2回打ち合わせ(調整作業班)

日時：平成5年10月6日(水) 11:00～17:00

1. 「図書書誌レコード修正」案について

前回の部会やその後BBSに出された意見を反映させた案に基づいて審議を行い、通則に、原則として最初に作成されたレコードを尊重することを加えること等が了承された。修正事項一覧については、BBSに出された意見や審議結果を盛り込んだ案を、次回の部会で最終的にまとめることになった。

2. 「和図書書誌レコード新規作成基準(親書誌)」について

原案に基づいて審議を行い、審議結果をまとめたものを後日BBSに掲載することになった。

3. 遡及入力について

遡及入力に関するメモをもとに意見交換を行い、カード目録からオンラインで入力する場合の基本指針を作成するという方向で了承された。

4. 「著者名典拠レコード新規作成基準」について

原案に基づいて審議を行い、審議結果をまとめたものを後日BBSに掲載することになった。

目録システム開発（第2期分）の予定

平成5年度の目録システムに対する機能強化項目のうち、

1. 典拠レコードに対する参加組織コードの表示
2. 典拠レコード注記フィールド必須化

については、平成5年10月29日(金)より運用を開始しております。

第2期分は以下の5項目を予定しています。

3. VTの種類コード統合に伴うコードチェック仕様の変更
4. 件名のヨミフィールドの追加
5. 雑誌レコードへの件名フィールドの追加
6. JAPAN/MARC(S)所蔵記録フィールドの追加に伴う表示等の変更
7. 参加組織情報の一覧機能の追加

ただし、第2期分については、諸般の事情により前号でお知らせした運用開始予定期日を延期して、3～6については平成6年2月から、7については平成6年4月から運用を開始する予定にしています。

出版国コードの一部改定について

掲載の国名コードの変更に伴い、コーディング・マニュアル付録1.2〔[出版国コード表](#)〕を一部改定しました。

新コードの運用は11月15日から行います。

変更したコードは以下のとおりです。

新規に追加されたコード

Eritrea(エリトリア) ea

詳しくは、本号付録「コーディング・マニュアル」を参照してください。